

灯

玉之浦小中学校だより

(あかり)

第 23 号
令和5年3月24日

卒業証書授与式

3月14日(火)卒業証書授与式を挙行し、小学校卒業生5名、中学校卒業生6名、計11名の卒業生が巣立って行きました。また本日、修了式と最後の学活、離任式を行い、令和4年度を閉じました。

3月14日(火)今年度はご来賓もお迎えして、卒業証書授与式を挙行いたしました。マスク着用等の感染予防をお願いしました。また、卒業生2名の自宅と式場をリモートで結び、11名全員が出席することができました。学級担任に引率され、

卒業証書授与



緋さん

知也さん

純さん

未来さん

《卒業生の紹介》

- 小学校 緒方希美さん
- 小林 緋さん
- 田端 純さん
- 中村知也さん
- 埜 未来さん
- 中学校 出口子母心さん
- 緒方真一さん
- 金丸未来さん
- 川脇颯太さん
- 中村和志さん
- 野澤太志さん

式辞では、左囲みのような餞の言葉を贈りました。



子母心さん

真一さん

颯太さん

太志さん

た。教育委員会告示では村上教育長が登壇され、サッカーワールドカップ三苦選手の奇跡の1mmから、継続は力なり：そして、故郷を支える人になつてほしいと、お言葉をいただきました。来賓祝辞では、市長名代の近藤支所長様から、車椅子テニス

ニスの国枝選手の手言葉に触れながら、人々には分岐点

には逃げる強さも必要だと温かいメッセージをいただきました。

村上教育長

近藤支所長様

餞の言葉

著名な方の名言よりも、私が自信を持って君たちに贈ることができ

きる「汗を流して、未来を拓く」を餞の言葉とします。中学生、高校生、大人になっていく君たちには、ただ流れに身を任せるのではなく、時々立ち止まって「今の自分は汗を流せているだろうか?」「次のステージでは何に挑戦しようか?」と、その時の自分をみつめ、一度しかない人生で、自分が願う幸せの形を追い求めていってほしいと思います。「汗を流して、未来を拓く」こうやって生きて行けたら、人としてかっこよくないかな?今感じている家族や故郷への感謝の気持ちを、自分の言葉や行動として恩返しができる時が必ずやってきます。

送辞の代表は越首嘉帆さんと中山穂乃香さん。卒業生との思い出や感謝の気持ち、これから自分の



【送辞】嘉帆さん



穂乃香さん

【答辞】純さん

・颯太さん



颯太さん

たちが学校を引き継いでいく決意を述べました。答辞の代表は田端純さんと川脇颯太さん。在校生へは、共に過ごした日々の思い出や感謝を伝えました。また、これから意を力強く述べました。最後に、地域の方への感謝、そしてご両親やご家族への感謝の気持ちを伝えました。式歌：在校生は「大切なものを」を歌いました。「ほんとに強い気持ち優しさを教えてくれた：ひとりじゃないことを君が教えてくれた：大切なものを」。卒業生は、東日本大震災後に南相馬市で生まれた「群青」を歌いました。「いつでも君がいたね当たり前が幸せと知った：涙の後も見上げた夜空に希望が光っているよ：消えはしない群青の絆、また会おう群青の町で」。校歌斉唱、閉式のことばで式を閉じ、拍手に背中を押されて卒業生が式場をあとにしました。

11名の卒業生たち



希美さん



和志さん

修了式・離任式

●修了式：私からは、様々な場面で汗を流してきた

た全員を褒めました。また、4月には学年が一つ上がって学習や活動がレベルアップします。期待を込めて、「求められたら、しっかり応えていこう。試してみないで、ダメ、できない！と言わない」と伝えました。

●離任式：最後の学活で1年間を総括した後、卒業生も加わって離任式を行いました。今年度末で退職・転出する職員は左下囲みの通りです。最後の授業のつもりで一人ずつ話をしました。その言葉を受け止めて、新年度も頑張ってくれることを期待したいと思います。

玉之浦小中学校での勤務年数は1〜6年とそれぞれですが、保護者・地域の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。ございました。

マスク着用の見直し

文科省の通知により、4月1日(土)から、学校ではマスクの着用を求めないことを基本とします。三密を避け、換気や手洗いの励行などは、今後も呼びかけを続けてい

春休みの緊急連絡など

お尋ねやご相談は、学校(☎88-2001)にご連絡ください。中学校については、岩永教頭と西村の対応が難しくなるので、緊急時の連絡は小学校の高洲教頭をお願いします。次年度に繋がる春休みにするためにも、健康と安全については、ご家庭

退職・転出する職員の紹介

年度末をもって10名の職員が退職・転出することになりました。 ※() 玉小中勤務年数

【小学校】

- 入江和代教諭 (3) 早期退職
- 青山哲也教諭 (6) 福江小へ
- 山下紘惣講師 (1) 退職・岐宿小へ(新規採用)
- 神崎陽子講師 (1) 退職・五島海陽高校へ
- 西村 隆 (3) 定年退職・富江中へ(再任用)

【中学校】

- 岩永東一郎教頭(3) 雲仙市立北串小へ(校長昇任)
- 東本拓海教諭 (3) 諫早市立高来中へ
- 鹿山瑠李養護教諭 (3) 長崎市立岩屋中へ
- 勝間拓海事務職員 (3) 南島原市立加津佐小へ
- 園山雅健講師 (1) 退職・三井楽中へ

終わりに

最後に私事ですが、玉之浦小中学校での勤務を最後に、38年間の教員生活に定年退職のけじめを付けます。初任の時の教え子たちが、すでに50歳を超える長い年月でした。一日一年を、途方もなく長く感じたこともありましたが、いざ終わりを迎えると、あつけないものです。社会の変化に伴い、学校や教員に課される役割も変化し、その対応に追われながら過ぎてきた38年だった感もあります。

特にこの3年間は、何をしても新型コロナウイルス感染症対応がつきまといました。子どもたちの健康と安全を守り、学びを止めないために様々な判断をしてきましたが、子どもたちには我慢を強いることばかりでした。このような中でも、汗を流すことをいとわない子どもたちが育ってくれていることを、嬉しく、心強く思います。また私なりに「学校だより」や「学校ホームページ」での情報発信に努めてきたつもりです。学校だより『灯(あかり)』は、通算68号(3年間)となる今号で役割を終えますが、少しはお役に立てたでしょうか？

日々、子どもたちは様々な表情を見せ、何かに挑戦することで成長する姿を見せてくれました。このような子どもたちと出会えたことに、感謝の言葉しかありません。4月からは38年前の初心に戻って、中学校技術科の一教員として再出発する予定です。今後、玉之浦小中学校の子どもたちの活躍を楽しみにしています。(合掌) 3年間、ありがとうございました。

第40回全国児童生徒俳句大会

標記の俳句コンクールに応募していたところ、2名の作品が入選しました。

- 冬晴にくまのらくがきグラウンド 真心さん
- 蟬を入れ亡骸残した籠の中 太志さん

シニア俳壇

2月27日(月)長崎新聞に、2名の俳句が掲載されました。

- 教会で楽しむ灯クリスマス 清悟さん
- 雪合戦手がかじかむでも楽しい 成香さん